

f-Biz型支援センター設置に対する考えは

経営課題を解決する有効な支援手段のひとつである



廣中 清介
無派不撓クラブ

中小企業・小規模事業者支援の取り組みについて

問 後継者がいないために黒字でも廃業する事業者が増えていると聞かすが、事業承継に対する支援は。

答 後継者とのマッチング支援や事業引き継ぎに係る契約条件の相談対応等の支援が必要と考える。

問 固定資産税3年間免除などの支援を受けられる先端設備等導入計画を策定した中小企業者の認定の状況は。

答 昨年7月から本年6月までで15件を認定した。

問 中小企業者総合支援事業の実績は。

答 平成30年度は、創業支援6件、出店促進3件、6次産業化1件となっている。

問 中小企業者総合支援事業の周知方法は。

答 市の広報やホームページでの情報発信、田原創業支援ネットワークのメンバーである田原・渥美両商工会や金融機関窓口での情報提供、商工会による個別訪問等で周知している。

問 田原創業支援ネットワークの相談窓口の体制は。

答 商工会をワンストップ相談窓口と位置付けている。

問 創業や6次産業化に対する潜在的な需要を掘り起こす取り組みは。

答 商工会の商人道場や田原市地域雇用創造協議会の各種セミナー、体験型観光プログラム及び6次産業新商品の公開セミナー等へ参加を促し、掘り起こしにつなげている。観光体験博覧会「たはら巡り～な」への参加連携で観光事業への参入にも結び付けている。

問 富士市産業支援センター(f-Biz)を視察した。いま中小企業・小規模事業者支援活動の成功事例として全国的に話題の相談所である。本市においてもご当地ビズの設置により産業支援に成果が出ると確信するが市の考えは。

答 中小企業・小規模事業者の経営課題を解決する有効な支援手段の一つと考える。本市の実情に合わせた支援策を検討していきたい。

問 豊橋市と豊川市は、預金債権と借入金等の相殺によるペイオフ対策を行っている。本市の考えは。

答 預金債権と借入金等との債務の相殺の考えを重視した預金はしていないが、結果的には預け入れしている金融機関の大部分から地方債の借入れを行っており、預金と借入金の相殺ができる部分もある。

問 本市が債券運用していない理由は。

答 財政状況により基金を取り崩すことが想定されるため、現在のところは、長期運用が必要な債券運用は行っていない。

問 今後、ますます財政状況が厳しくなる中で公金運用の方針は。

答 財政状況や金利の動向を確認したり、各基金担当課と情報共有を行っている田原市資金管理運用委員会を定期的に開催し、確実かつ効率的な運用を行っていく。